

平成 26 年 6 月 7 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22320062

研究課題名(和文)近代以降のロシア文化における「南方」表象の総合的研究

研究課題名(英文) Many-sided Study on Representation of the "South" in Russian Culture since Modern Ages

研究代表者

中村 唯史 (NAKAMURA, Tadashi)

山形大学・人文学部・教授

研究者番号：20250962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,200,000円、(間接経費) 3,360,000円

研究成果の概要(和文)：近代(18世紀以降)から現代に至るロシア(ソ連)文化において、南方地域(ヴォルガ下流域、ウクライナ、クリミア、コーカサス等)がどのように表象されてきたかの考察を目的とする本研究は、1回の共同調査(2012年9月、アルメニア)と3回の国内研究会などで個別研究の総合化を図り、国際シンポジウム「想像の風景」(2012年9月12日、於アルメニア共和国ロシア=アルメニア(スラヴ)大学)と欧文・和文各1冊の論集の刊行によって、ロシアの南方表象の多様な諸相およびその成立と変遷の原因の解明に対する貢献と呼びうる成果を挙げた。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project was investigation and analyses of various representations of the South (lower reaches of river Volga, Ukraine, Crimea and Caucasus) in Russian and Soviet culture since the 18th century up to nowadays. We tried to synthesize individual studies of project members by joint fieldwork in Armenia on September, 2012 and other scientific meetings, and obtained good results to make clear diverse faces of our objects and reasons of their outbreak and change by holding the international round table "Imagining the Landscape" (September 2012, at Russian-Armenian (Slavic) University in Yerevan, Armenia Republic) and publication of two collections of articles (in Russian and Japanese).

研究分野：ヨーロッパ文学(英文学を除く)

科研費の分科・細目：基盤研究(B)(一般)

キーワード：ロシア 南方 文化 表象

## 1. 研究開始当初の背景

ロシア文化における「南方」表象の研究は、コーカサス地方を主要な対象として、1990年代から世界的に行われてきた。これは西欧思潮の影響も受けつつ、ロシアに民族的自己意識が成立した18世紀末から19世紀にかけて、ロシア帝国がこの地域を併合していたという歴史的な偶然から、コーカサスとこの地域に住む人々が、ロシア文化において最も代表的な「他者」として表象されてきたという経緯を踏まえてのことだった。

これらの研究は、いわゆる「オリエンタリズム」や「ポストコロニアリズム」の立場から、植民地やマイノリティの側を考慮に入れつつ、「宗主国」やマジョリティの言説を批判的に読み直していこうとするものであり、特に文化史とその周辺の学問領域において、優れた成果を挙げてきた。ただし、ときにイデオロギー的な構えを優先し、実証的な分析が手薄な論考が現れることもあった。また言語的な理由から、植民地やマイノリティの側の言説を直接に対象とすることには大きな困難が伴う場合が多かった。

一方、同時期の地域研究の分野では、現地の言語の習得と、フィールドワークや資料調査に基づいて、マイノリティとマジョリティの両方の事情を踏まえた、優れた実証的研究が数多く現れた。またコーカサスのみならず、ロシア文化においてしばしば「南方」として同一視されたり、結びつけて捉えられたりしたウクライナ、クリミアなどを対象とした研究も書かれた。ただし、概して言説における複数のイデオロギーの交錯を読み解く方法に対する意識が希薄だったため、ときに表象の生成を事実に戻す、下部構造論的な議論が現れた。また、俯瞰的な視点に立つために、マジョリティとマイノリティの間の力のヒエラルキーを等閑視する傾向を帯びた論考も書かれた。

## 2. 研究の目的

以上のような学術的動向を背景として構想された本プロジェクトでは、以下のようなことが目的となった。

(1) 研究領域を、人文科学の領域で、従来重視されてきた19世紀コーカサスの表象に限ることなく、ロシアに民族的自己意識の萌芽がめばえた18世紀末から、なおその枠組の影響下にある現代まで、またコーカサスのみならず、伝統的に「南方」として一括して把握される場合のあった沿ヴォルガ下流域、ウクライナ、クリミアの表象にまで拡大する。

(2) イデオロギー的な構えをいったん括弧でくくり、批判的な視点は確保しつつも、個々のテキストに即した具体的な読みを展開する。

(3) 重視するがゆえに、人文科学において、視野の拡大の大きな障害となる言語の壁を克服するために、ロシア語や英語を理解す

る現地研究者や作家・芸術家との情報・意見交換を強化し、マイノリティの側からの視点を確保する。

## 3. 研究の方法

前述の(1)を実現するために、18世紀後半以降のさまざまな時代を専門とし、さまざまな地域表象をフィールドとする研究者による共同プロジェクトのかたちを取った。

また(2)のために、理論的・方法論的な学術動向を踏まえつつも、個別事例の調査と精読、時代状況を踏まえつつ開かれたテキスト分析に重点を置いた考察を行った。

(3)対象地域の研究者・知識人との連携を強め、直接の面談やインターネットによる情報・意見交換の機会を多く設定することに努めた。

## 4. 研究成果

3回に渡る公開研究会の実施や、ロシアおよび旧ソ連への個別訪問によって、国外の研究者も含む、共同研究ネットワークの構築に成功した。その顕著な成果は、2012年9月12日にアルメニア共和国エレヴァン市ロシア＝アルメニア(スラヴ)大学で開催された、国際ラウンド・テーブル「想像の風景」である。これはロシア語を使用言語とし、日本、ロシア、アルメニアの文学者、歴史学者、文化人類学者が報告と質疑応答に参加したもので、成功裡に行われた。またその成果は、『想像の風景：日本とアルメニアの視点から』と題するロシア語論集としてまとめられ、北海道大学スラブ研究センターから、地域大国比較研究シリーズの12巻として刊行された。またこのラウンド・テーブルと前後して、アルメニアにおける歴史表象のあり方に関する現地調査を実施し、プロジェクト構成メンバーの過半数が参加して成果を挙げた。

また本プロジェクトのメンバーは、本テーマに関連するテーマによる報告や講演を、日本国内外で積極的に行い、反響を得た。

最終年度である2014年3月には、本プロジェクトの集大成として、日本語論集『ロシアの南：近代ロシア文化におけるヴォルガ下流域、ウクライナ、クリミア、コーカサス表象の研究』を、山形大学人文学部叢書5巻として上梓した。これは、時期としては19世紀初頭から現代まで、地域としてはウクライナ、沿ヴォルガ下流域、クリミア、チェチェン、アルメニアなどの表象を網羅し、また比較文化論的な見地からロシア人の台湾表象に関する論考や、現地調査に基づき、マイノリティの視点から書かれた論考なども含めた8編の論文から成っている。個別事例の考察に徹したため、イデオロギー的な枠組みはやや希薄となっている反面、そのような枠組みに収まりきれないロシアの「南方」表象の多様性、およびその錯綜した様相を浮き彫りにすることに成功した。

本プロジェクトのメンバーはまた、19世紀

のコーカサスを舞台とした文学作品の翻訳や、一般誌へのエッセイの執筆なども行った。これは本研究の成果を踏まえつつ、これを社会的に発信することの一環であった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 14 件)

鳥山 祐介、エカテリーナ期 - ナポレオン戦争期のロシア詩の中のヴォルガ、スラブ・ユーラシア研究報告集(北海道大学スラブ研究センター) 査読無、4号、2012年、35-67ページ

長谷川 章、『ヴォルガ・ヴォルガ』とヴォルガ表象、同上、査読無、2012年、127-137ページ

望月 哲男、文学はどのようにして風景を会得しようとしたのか：農奴解放令以前のロシアにおける沿ヴォルガ地域の文学者の旅、中村 唯史(編)想像の風景：日本とアルメニアの視点から(北海道大学スラブ研究センター) 査読無、地域大国比較研究シリーズ 12巻、2013年、27 - 41ページ (ロシア語)

中村 唯史、近代日本文化における風景について、同上、査読無、69 - 79ページ(ロシア語)

中村 唯史、ソチと南とロシア文学、ロシア文化通信「群」(群像社) 査読無、43号、2013年、1-2ページ

中村 唯史、マイトレーヤとレーニンのアジア：無国籍者レーリヒの世界図、望月 哲男(編)ユーラシア地域大国の文化表象(ミネルヴァ書房) 査読有、シリーズ・ユーラシア地域大国論 6巻、2014年、198-223ページ

鳥山 祐介、イズマイロフ『南ロシアへの旅』に描かれたウクライナ：「風景」「歴史」「信仰」を巡る感傷旅行、中村 唯史(編)ロシアの南：近代ロシア文化におけるヴォルガ下流域、ウクライナ、クリミア、コーカサス表象の研究、査読有、山形大学人文学部叢書 5巻、2014年、1-22ページ

望月 哲男、19世紀の水辺地域調査プロジェクトとロシア南方のイメージ、同上、査読有、23-67ページ

斎藤 毅、地政学と地詩学の見地から見たクリミア：マッキングダーとヴォロージン、同上、査読有、69-93ページ

塚本 善也、なぜネフスキイは台湾・ツォウ族村へ出かけたのか：『ツォウ族方言資料』

成立前史、同上、査読有、95-127ページ

中村 唯史、地中海からアラギョーズへ：マンデリシタームの詩学とアルメニア、同上、査読有、129-184ページ

福間 加容、アルメニアの画家M・S・サリヤン、同上、査読有、185-203ページ

岩本 和久、2000年代のロシア文学に描かれたチェチェン紛争：マカーニン『アサン』とサドゥラエフ『シャリ急襲』を中心に、同上、査読有、205-221ページ

植岡 求美、創造と継承：エレヴァンの演劇事情紹介、同上、査読有、223-242ページ

[学会発表](計 7 件)

鳥山 祐介、共通論題「啓蒙と専制」：18世紀末 19世紀初頭のロシアにおける風景表象の様式、日本ロシア史研究会、2010年10月17日、立教大学池袋キャンパス

鳥山 祐介、1790～1810年代のロシアにおける旅行記：見出される境界線と風景への眼差し、シンポジウム[ディアスポラの近代 国境を超える歴史形成-]、2010年12月14日、)千葉大学西千葉キャンパス

岩本 和久、レーニンとソルジェニーツィン：作中人物と作者の同一化、国際学術カンファレンス「アレクサンドル・ソルジェニーツィンの人生と創作-《赤い車輪》への道」、2011年12月8日、アレクサンドル・ソルジェニーツィン記念在外ロシアの家(モスクワ) (ロシア語)

福間 加容、日本美術におけるロシアの面影、2011年12月21日、国際交流基金モスクワ支部(モスクワ)(ロシア語)

鳥山 祐介、エカテリーナ2世期から対名歩レオン戦争期にかけてのロシア詩におけるヴォルガ川のイメージ、2012年1月5日、ハイ・ライヒ会議場センター(ホデスドン)(英語)

望月 哲男、文学による風景の会得の経験：改革以前の沿ヴォルガ地域における文学旅行について、2012年9月12日、国際円卓会議「想像の風景」、アルメニア共和国エレヴァン市ロシア=アルメニア(スラヴ)大学、(ロシア語)

中村 唯史、近代日本文化における風景について、同上、(ロシア語)

[図書](計 3 件)

トルストイ作、乗松 亨平訳、コサック：1852年のコーカサス物語、光文社、2012年、総

中村 唯史(編)、北海道大学スラブ研究センター、想像の風景：日本とアルメニアの視点から、査読無、地域大国比較研究シリーズ 12 巻、2013 年、総 131 ページ (ロシア語)、ISBN 978-4-938637-74-3

中村 唯史(編)、山形大学人文学部叢書 5、ロシアの南：近代ロシア文化におけるヴォルガ下流域、ウクライナ、クリミア、コーカサス表象の研究、2014 年、総 242 ページ。ISBN 978-4-907085-04-9

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

中村 唯史 (NAKAMURA, Tadashi)  
山形大学・人文学部・教授  
研究者番号：20250962

##### (2) 研究分担者

岩本 和久 (IWAMOTO, Kazuhisa)  
稚内北星学園大学・情報メディア学部・教授  
研究者番号：40289715

鳥山 祐介 (TORIYAMA, Yusuke)  
千葉大学・文学部・准教授  
研究者番号：40466694

乗松 亨平 (NORIMATSU, Kyohei)  
東京大学・人文社会系研究科・助教  
研究者番号：40588711

長谷川 章 (HASEGAWA, Akira)  
秋田大学・教育文化学部・教授  
研究者番号：60250867

野中 進 (NONAKA, Susumu)  
埼玉大学・教養学部・教授  
研究者番号：60301090

楯岡 求美 (TATEOKA, Kumi)  
神戸大学大学院・国際文化学研究科・准教授  
研究者番号：60324894

望月 哲男 (MOCHIZUKI, Tetsuo)  
北海道大学・スラブ研究センター・教授  
研究者番号：90166330

##### (3) 連携研究者

斉藤 毅 (SAITO, Takeshi)  
大妻大学・非常勤講師

福間 加容 (FUKUMA, Kayo)  
千葉大学・文学部・非常勤講師